

「協会けんぽ加入事業所が取り組む健康推進事業の背景要因分析」

奈良支部 企画総務グループ 主任 石松 丈詩

レセプトグループ 飯田 善啓

保健グループ 加藤 暁、山田 啓介

企画総務部 土居 稔典

奈良県立医科大学 講師 小松 雅代、教授 今村 知明

概要

【目的】

奈良支部が行う健康推進事業「第1回職場まるごと健康チャレンジ」(以下、「事業」)の参加・非参加者の背景要因を分析し、その特性把握及び事業の効果的な推進への寄与を目的とする。

【方法】

対象者は奈良支部被保険者で、健康保険委員登録事業所の被保険者のうち、事業参加前後(2015・2017年度)の特定健康診査(以下、「健診」)受診者12,303人(男性7,940人、女性4,363人)とした。生活習慣改善に3ヶ月間取り組む事業への参加群(1,576人)と非参加群(10,727人)に分け、性・年齢階級・業種別・健診結果に基づく特性把握について分析した。分析にはSPSS Statistics ver22を使用し、有意水準は0.05未満とした。

【結果】

参加群の割合は調査群全体の12.8%であった。参加群は男性921人(11.6%)、女性655人(15.0%)で、女性の参加率が有意に高かった。非参加群の年齢階級別では、40歳代・50歳代で女性の割合が、60歳代・70歳代で男性の割合が有意に高かった。業種別では「製造業」、「医療・福祉」、「卸売・小売業」の上位3業種で全体の約70%を占めた。男性の割合は「運輸業」、「建築業」、「電気・ガス・熱供給・水道業」の順で高く80%以上を占め、女性の割合は「医療・福祉」、「公務」、「学術研究・専門・技術サービス業」の順で高かった。健診結果の参加群と非参加群の比較では、2015年度の男性は収縮期血圧・拡張期血圧・HbA1cが有意に低く、女性は腹囲が有意に低かった。2017年度では、男性は収縮期血圧・拡張期血圧が有意に低く、女性は腹囲が有意に低かった。

【考察】

参加率では女性が有意に高く、60歳以降の男性が有意に低かったことから、女性が更に取り組み易く、60歳以降の男性の参加も促す事業を行い、更に参加する業種を意識し、ポピュレーションアプローチの効果を出す事が求められる。

また、参加群・非参加群の性別毎の健診結果に差があることから、事業参加前から健康意識・行動に差がある事が示唆された。

本文

【目的】

奈良支部が行う健康推進事業「第1回職場まるごと健康チャレンジ」(以下、「事業」)の参加・非参加者の背景要因を分析し、その特性把握及び事業の効果的な推進への寄与を目的とする。

当事業は、奈良支部が提供する「健康づくりメニュー」の中から、職場全体で取り組むメニューと従業員個人が取り組むメニューを一つ以上選択して、3ヶ月間(2016年12月～2017年2月)、生活習慣改善に社内で一斉に取り組むスモールチェンジをコンセプトとしたポピュレーションアプローチである。

【方法】

対象者は奈良支部被保険者(167,495人、16,711事業所)で、奈良支部が委嘱する健康保険委員(※)登録事業所の被保険者(57,294人、1,146事業所)のうち、事業開始前(2015年度)と事業開始後(2017年度)の特定健康診査(以下、「健診」)受診者12,303人(男性7,940人、女性4,363人)とした。(図1)

※協会けんぽの事業推進等にご協力いただける被保険者の方を、各都道府県支部長が健康保険委員として委嘱する制度

(図1：分析対象者データの抽出方法)



事業への参加群(1,576人)と非参加群(10,727人)に分け、性・年齢階級・業種別・健診結果に基づく特性把握について、2群間の比較は、連続変数にはt検定、離散変数には χ^2 検定を用いて、分析にはSPSS Statistics ver22を使用し、有意水準は0.05未満とした。

なお、事業所業態分類票における 42 業種では調査結果が細分化されるため、17 業種に再区分した。

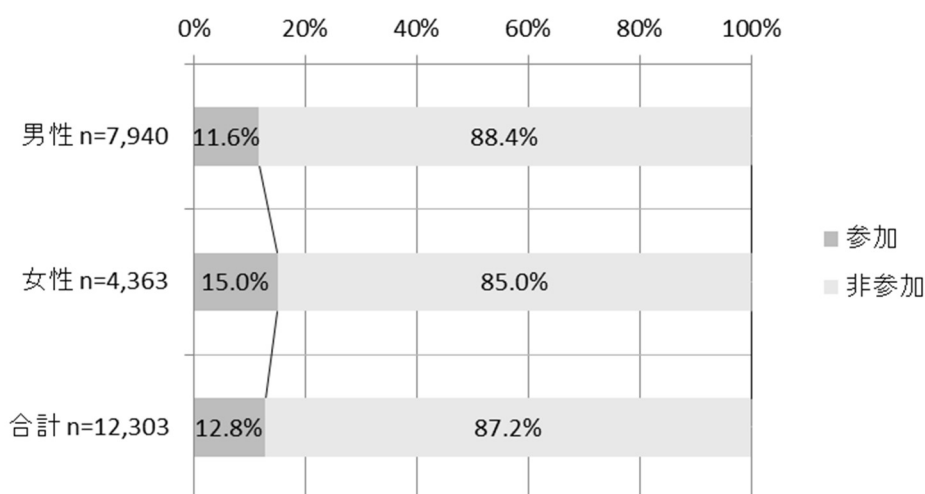
【結果】

対象者の平均年齢は男性が 51.1 歳、女性が 50.3 歳であった。

参加群の割合は調査群全体の 12.8%であった。

参加群の男性は 921 人(11.6%)、女性は 655 人(15.0%)、非参加群の男性は 7,019 人(88.4%)、女性は 3,708 人(85.0%)で、参加群の女性が有意に高い割合を示した ($p < 0.001$)。(図 2)

(図 2 : 参加群・非参加群の性別割合)

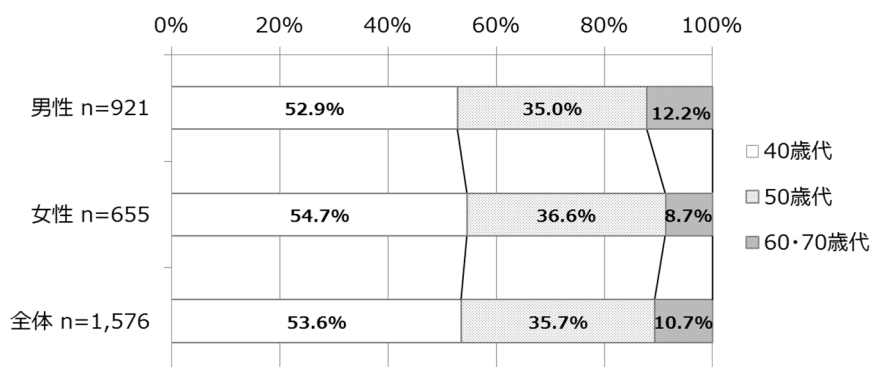


参加・非参加群ともに 40 歳代・50 歳代が 8 割以上を占めていた。

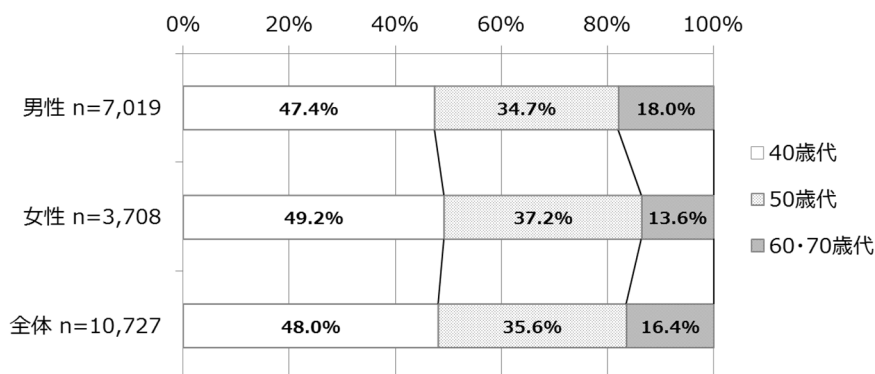
参加群の年齢階級別では、男女共に 40 歳代・50 歳代の割合が高く、男女による有意な差はなかった ($p = 0.065$)。(図 3)

非参加群の年齢階級別では、40 歳代・50 歳代で女性の割合が、60 歳代・70 歳代で男性の割合が有意に高かった ($p < 0.001$)。(図 4)

(図 3 : 参加群性別・年齢階級別割合)

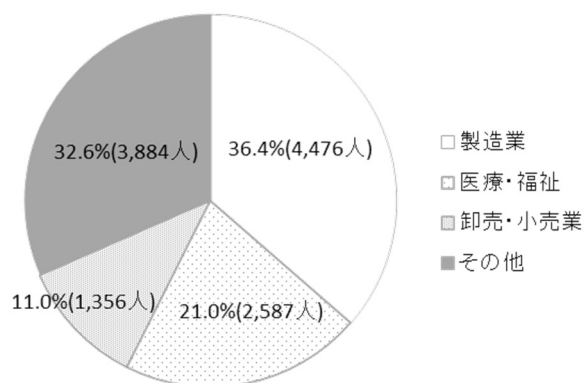


(図4：非参加群の性別・年齢階級別割合)



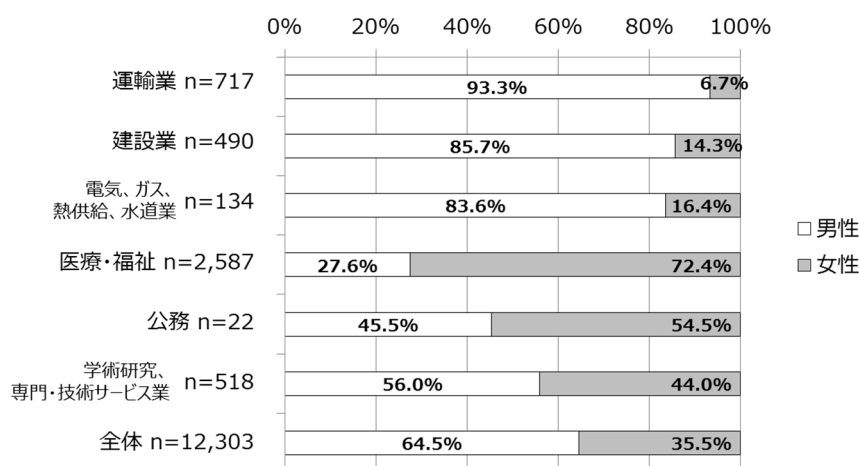
対象者を業種別にみると、「製造業」4,476人(36.4%)、「医療・福祉」2,587人(21.0%)、「卸売・小売業」1,356人(11.0%)の上位3業種で全体の約70%を占めた。(図5)

(図5：対象者の属性<業種別>)



男性は「運輸業」、「建築業」、「電気・ガス・熱供給・水道業」の順で高く80%以上を占め、女性は「医療・福祉」(72.4%)、「公務」(54.5%)、「学術研究・専門・技術サービス業」(44.0%)の順で高かった。(図6)

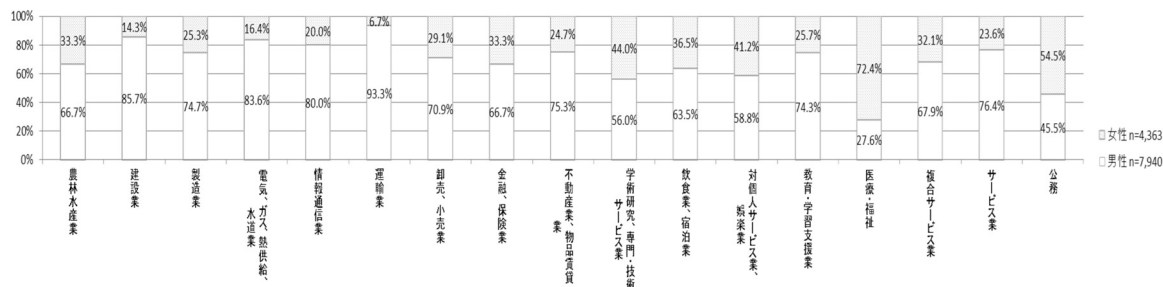
(図6：上位3業種別の男女割合)



上位3業種では、「製造業」(男性 3,345 人、女性 1,131 人)、「医療・福祉」(男性 714 人、女性 1,873 人)、「卸売・小売業」(男性 961 人、女性 395 人)となり、性別に有意な差が見られた($p < 0.001$)。(図 7)

しかし、参加群・非参加群の比較では、性別に有意な差は見られなかった(「製造業」 $p = 0.065$ 、「医療・福祉」 $p = 0.816$ 、「卸売・小売業」 $p = 0.912$)。

(図 7：業種別男女割合<17業種全体>)



当事業実施前の 2015 年度と実施後の 2017 年度の健診結果の参加群・非参加群での比較では、有意な差はなかった。

受診年度ごとの参加群と非参加群の比較では、非参加群と比べて参加群は、2015 年度の男性は収縮期血圧(参加群 122.7mmHg、非参加群 126.4mmHg。 $p < 0.001$)、拡張期血圧(参加群 77.5mmHg、非参加群 79.5mmHg。 $p < 0.001$)、HbA1c(参加群 5.6%、非参加群 5.7%。 $p < 0.01$)が有意に低く、女性は腹囲(参加群 76.9cm、女性非参加群 78.9cm。 $p < 0.001$)が有意に低かった。2017 年度の健診結果では、男性は収縮期血圧(参加群 124.5mmHg、非参加群 127.7mmHg。 $p < 0.001$)、拡張期血圧(参加群 78.3mmHg、非参加群 79.8mmHg。 $p < 0.001$)が有意に低く、女性は腹囲(参加群 78.2cm、非参加群 79.6cm。 $p < 0.001$)が有意に低かった。(表 1・2)

(表 1：健診結果における参加群と非参加群の比較<男性>)

健診項目	2015年度			2017年度		
	参加	非参加	P値	参加	非参加	P値
	n=921	n=7019		n=921	n=7019	
収縮期血圧 (mmHg)	122.7	126.4	<0.001	124.5	127.7	<0.001
拡張期血圧 (mmHg)	77.5	79.5	<0.001	78.3	79.8	<0.001

健診項目	2015年度		
	参加	非参加	P値
	n=512	n=3810	
HbA1c (%)	5.6	5.7	<0.01

※HbA1c については必須項目の検査でないため、欠損値あり。

(表 2 : 健診結果における参加群と非参加群の比較<女性>)

健診項目	2015年度			2017年度		
	参加	非参加	P値	参加	非参加	P値
	n=655	n=3708		n=654	n=3707	
腹囲 (cm)	76.9	78.9	<0.001	78.2	79.6	<0.001

【考察】

当事業への参加率は調査群全体の 12.8%と低い状況だが、今後当事業への参加を促すためには、女性が更に取り組みやすく、60 歳以降の男性が参加しやすいような仕掛けが必要だと考えられた。更に参加する業種を意識したアプローチの検討も求められる。

また、参加群・非参加群の性別ごとの健診結果に差が見られたことから、当事業への参加前から健康意識・行動に差がある事が示唆された。

今後の事業実施に当たっては、今回の調査結果を踏まえ、より取り組みやすい内容へと見直しを図っていきたい。

【備考】

第 92 回 日本産業衛生学会でポスター発表

第 6 回 協会けんぽ調査研究フォーラムでポスター発表